

写真と図版を多くして、視覚的な編集に重点を置く本誌「胃と腸」としては、画像・写真が少ない特集号となった。しかし、中身は濃い。胃癌に対する画像診断、疫学、内視鏡治療の変遷、化学療法、外科療法に温故知新が詰まっている。消化器病学の進歩の成果が、臨床医家に理解されやすいように書かれている。

わが国で初めて、他の学会に先駆けて、学会による治療方針のガイドライン(2001年)が作成されたのも、胃癌についてであり、標準化とともに胃癌の治療も個別化の時代に入って来つつある。「*Helicobacter pylori* と胃癌」の関連についても、

分子生物学的な解析が行われ、少しずつ明らかにされてきている。ここにも温故知新がうかがえる。ところで、最近、温故知新から生まれて、より積極的でより行動的な温故創新という用語が、注目を浴びている。胃癌の歴史は、診断と治療の原点であり、教師でもある。またわれわれは医学の継続性という道の中に身を置いている。医学の継続性を常に考えながら、できればそこから1つでもよいから、新しい創新への階段を昇っていきたいものである。本特集号が、その糧になれば幸いである。

胃と腸

2月号(第40巻・第2号) 予告

発売予定 2月25日
定 価 2,520円

主題／大腸カルチノイド腫瘍—転移例と非転移例の比較を中心に

序 説	大腸カルチノイド腫瘍—転移例と非転移例の比較を中心に……………九州大学大学院・病態機能内科学	飯 田 三 雄
主 題	大腸カルチノイド腫瘍の病理学的特徴—転移例と非転移例の比較を中心に……………福岡大学筑紫病院・病理部	岩下 明德・他
	直腸カルチノイド腫瘍の画像診断—X線・内視鏡・EUS: 転移例と非転移例の比較を中心に……………松山赤十字病院・消化器科	小林 広幸・他
	大腸カルチノイド腫瘍—CT・MRI: 転移の診断……………国立がんセンター中央病院・放射線診断部	宮川 国久・他
	大腸カルチノイド腫瘍の内科治療適応に関する臨床病理学的検討……………大阪医科大学・第2内科	平田 一郎・他
	大腸カルチノイド腫瘍の外科治療……………帝京大学医学部・外科	松田 圭二・他
	大腸カルチノイド腫瘍の全国集計—大腸カルチノイド腫瘍の治療方針……………市立旭川病院・消化器内科	斉藤 裕輔・他
主題症例	多発肝転移を伴った最大径1cmの直腸カルチノイド腫瘍の1例……………健康保険直方中央病院・内科	田畑 寿彦・他
	S状結腸銀還元性カルチノイドの1例……………福岡大学筑紫病院・病理部	池田 圭祐・他

胃と腸 (第40巻 第1号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

☎ 本誌編集室直通(03)3817-5714

FAX (03)3815-7802/3815-7982

E-mail: itocho@igaku-shoin.co.jp

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/itocho/

2005年1月25日発行(毎月25日発行)

1部定価2,520円(本体2,400円+税5%)

2005年年ぎめ予約購読料37,050円

(2号分の増刊号を含む14冊)(送料弊社負担)

☎ 販売部直通(03)3817-5659

振替口座 00170-9-96693

印 刷 所 永和印刷(株) ☎(03)3813-5001

広告取扱 文 栄 社 ☎(03)3814-8541

・早期胃癌研究会は、当研究会、早期胃癌検診協会およびエーザイ株式会社の三者の共催で行われている。

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2005, Printed in Japan.

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は株医学書院が保有します。

・JICLS <株日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に株日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。

・医学書院ホームページ(インターネット) <http://www.igaku-shoin.co.jp>

(担当)山中・飯村・今田・小松原